

Clearswift SECURE ICAP Gateway

インストールおよび入門ガイド

バージョン4.7.0

ドキュメント リビジョン 1.0

著作権

修正番号 1.0 2017 年11 月

Clearswift Ltd. 発行

© 1995–2017 年 Clearswift Ltd.

All Rights Reserved.

ここに含まれる資料は、特に定めのない限り、Clearswift Ltd の独占的な財産とします。Clearswift の財産は、いかなる部分においても、Clearswift Ltd の明白な許可なく、電子的、機械的、フォトコピー、録音によるいかなる方法を問わず、いかなる形態にても複製、配布、伝送、および読み込み可能なシステムに保存することはできません。また、その他いかなる方法にても使用することはできません。

この文書に含まれる情報には、説明の目的で架空の人物、企業、製品および出来事が含まれることがあります。実在の人物、企業、製品および出来事に類似する場合があっても、これらはすべて偶然であり、このような類似性に起因するいかなる損失に対しても Clearswift は一切の責任を負わないものとします。

Clearswift のロゴおよび Clearswift の製品名は、Clearswift Ltd. の商標です。その他すべての商標は、各社の商標です。Clearswift Ltd. (登録番号 3367495) は英国で登記しています。登録事務所の所在地は、1310 Waterside, Arlington Business Park, Theale, Reading, Berkshire RG7 4SA, England です。ユーザーは、輸出、輸入、および暗号の使用に関して、当該国のすべての法規を必ず遵守しなければなりません。

Clearswift は、この文書のいかなる部分においてもいつでも変更できる権利を留保します。

著作権と同意書の完全なバージョンは、[ここ](#) をクリックしてご確認ください。

目次

著作権	ii
目次	iii
1. このガイドについて	5
1.1 このガイドの対象になる方	5
2. インストールの前に	6
2.1 インストールのタイプ	6
2.2 ソフトウェアの入手	6
2.3 動作環境	7
ハードウェア要件	7
インストール メディア	7
サポートされるブラウザ	7
3. Clearswift SECURE ICAP Gateway のインストール手順	8
3.1 Clearswift SECURE ICAP Gateway のインストール手順	8
3.2 ISO イメージからのインストール	8
Clearswift SECURE ICAP Gateway インストール ウィザードの使用に関する注記	10
3.3.1 Gateway リリース 4.7.0 上で TLS v1.0 のを再有効化し暗号化(サイファ) をアップデートする方法:	10
3.3.2 Gateway バージョン 3 のピアのキーストアの更新方法	11
3.4 Clearswift オンラインリポジトリへのアクセスの有効化または無効化	11
4. Clearswift SECURE ICAP Gateway バージョン 3.2 からのアップグレード	13
4.1 オリジナル システムのバックアップ	13
4.2 Gateway のインストール 4.7.0	14
4.3 システム バックアップの復元	14
5. リリース 4.x からリリース 4.7.0 へのアップグレード	15
付録: ソフトウェアインストールプロセス(ディスクから)	17
インストール後の注意事項	18
ソフトウェアのインストールプロセスが完了したら...	18
付録: ソフトウェアのインストールプロセス(Clearswift オンラインリポジトリか	18

ら)	
インストール後の注意事項	19
ソフトウェアのインストールプロセスが完了したら... ..	20
付録: USB インストール メディアの準備	20

1. このガイドについて

このガイドにはClearswift SECURE ICAP Gateway を仮想 マシンまたは物理 サーバーにインストールする管理者向けの情報が記載されています。具体的には、完全インストールに必要な手順および要件について説明します。

1.1 このガイドの対象になる方

このガイドの対象読者

- 初めてClearswift SECURE ICAP Gateway をインストールする新規ユーザー
 - Clearswift SECURE ICAP Gatewayの最新バージョンの リリース 3.2 から リリース 4.7.0 にアップグレードするユーザー。
 - Clearswift SECURE ICAP Gateway リリース 4.x から4.7.0 リリース へのアップグレード
-

2. インストールの前に

このセクションでは、動作環境と Clearswift SECURE ICAP Gateway のインストール前に必要な考慮事項を説明しています。Gateway は、64 ビット Red Hat Enterprise Linux (RHEL 6.9) 上で動作します。物理サーバーまたは仮想マシンに製品をインストールすることができます。サポートされるプラットフォームの詳細については、「[動作環境](#)」を参照してください。

2.1 インストールのタイプ

次のいずれかのプロセスを使用して Clearswift SECURE ICAP Gateway をインストールできます。

インストールプロセス	説明	参照
標準インストールプロセス	RHEL 6.8 と Clearswift ソフトウェアの両方を含む ISO イメージを使用して本製品をインストールするユーザーに適用されます。	ISO イメージからのインストール
ハードウェアインストールプロセス	Clearswift から提供されているプレインストール済みハードウェアを使用して本製品を導入するユーザーに適用されます。	デフォルトの資格情報を使用して、cs-admin としてログインします。
ソフトウェアインストールプロセス(ISO から)	既存の RHEL 6.8 プラットフォームに本製品をインストールするユーザーに適用されます。	付録 A: ソフトウェアインストールプロセス
ソフトウェアのインストールプロセス(オンライン Clearswift リポジトリから)	既存の RHEL 6.8 プラットフォームに本製品をインストールするユーザーに適用されます。	付録 B: ソフトウェアインストールプロセス

2.2 ソフトウェアの入手

Clearswift SECURE ICAP Gateway ソフトウェアは、以下から入手できます。

- [Clearswift download area](#) から Clearswift SECURE ICAP Gateway ISO イメージをダウンロードできます。
- Clearswift (ハードウェアを購入の場合はすでにソフトウェアがプレインストールされています。)

2.3 動作環境

インストールの前に、以下の動作要件を確認してください。

ハードウェア要件

コンピューターまたは仮想マシンには、テストおよびデモ環境では、最低限 6 GB 以上の RAM と 60 GB 以上のハードドライブが必要です。Clearswift では、実稼働環境で使用する場合はストレージおよび処理要件に応じて 8 GB RAM と 200GB 以上のハードドライブをお勧めしています。ハードウェアのサイジングについての詳細は、ハードウェアのサイジングについての詳細は、

インストール メディア

必ず正しいバージョンの ISO イメージを使用してください。インストールに使用するISOバージョン: WEB_470.iso

ISO イメージのコピーを Clearswift リポジトリからダウンロードしたら、以下の方法を使用して、ソフトウェアをインストールします。

- 光学式 DVD に ISO イメージをコピーする: Clearswift では、Clearswift SECURE ICAP Gateway ソフトウェアをインストールする場合、この方法をお勧めしています。
- USB メディアに ISO イメージをコピーする: 手順はこのガイドの付録 B を参照してください。
- 仮想 DVD ドライブとして ISO イメージをアタッチする: この方法は仮想マシンにのみ適用できます。

サポートされるブラウザ

TLS1.2 (サイファー) の暗号化を使用した Clearswift SECURE ICAP Gateway への接続をサポートし、次のブラウザでテストされています。

- Internet Explorer IE10 (Windows 7)
- Internet Explorer IE11 (Windows 7、Windows 8)
- Mozilla Firefox 17、24、30、36 以上
- Google Chrome 40 以上
- Microsoft Edge (Windows 10)

3. Clearswift SECURE ICAP Gateway のインストール手順

オンライン Clearswift リポジトリでダウンロードできる ISO イメージから Clearswift SECURE ICAP Gateway ソフトウェアをインストールできます。

インストールプロセスでは次の作業を行います。

1. Red Hat Enterprise Linux 6.8 オペレーティング システムと Clearswift SECURE ICAP Gateway をインストール メディアからインストールします。
2. コンソール ベースの *Configure System* ウィザードを実行し、ネットワーク設定を含むデフォルトのシステム値を調整します。
3. ソフトウェアの最新の更新 ファイルがある Clearswift のオンライン リポジトリへのアクセスを有効化します。

Gateway がインストールされたら、*Clearswift Install Wizard* を [完了] をクリックして終了します。

3.1 Clearswift SECURE ICAP Gateway のインストール手順

次の手順では、Red Hat Enterprise Linux 6.9 オペレーティングシステムのインストールが完了してから行う、Clearswift SECURE ICAP Gateway のインストール方法について説明しています。

[「セクション 3.2 ISO イメージからのインストール」](#)は、RHEL 6.9 と Clearswift ソフトウェアの両方を含む ISO イメージを使用して標準インストールを実行する場合にのみ適用します。



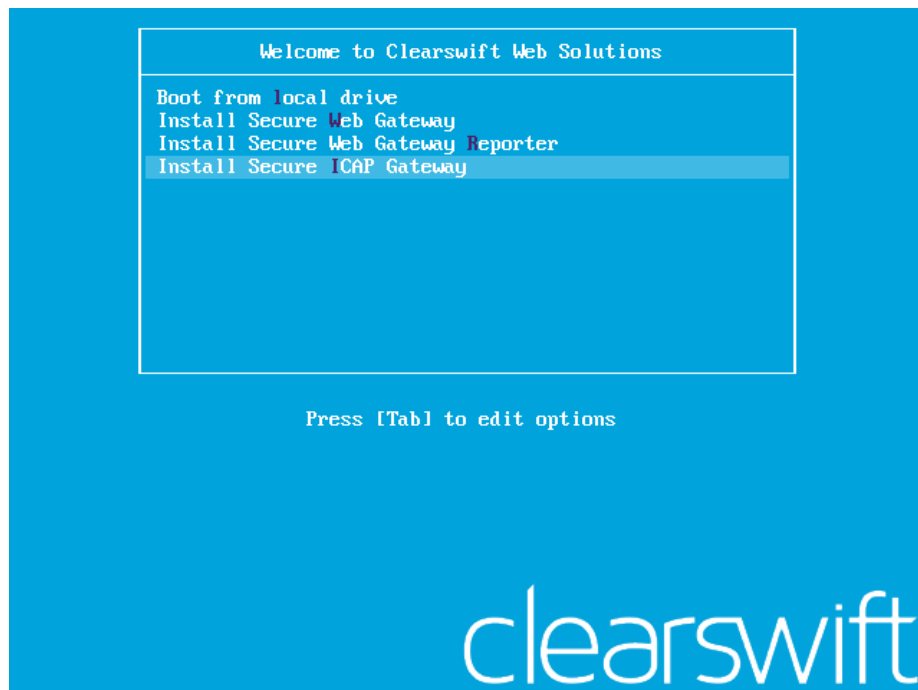
ハードウェア インストールを実行する場合には、[「セクション 3.3 Clearswift システム設定ウィザードの実行」](#)を参照してください。

既存の RHEL 6.9 サーバーにインストールする場合は、このガイドの付録 A または付録 B の手順を使用してインストールを実行してください。その後、[第 3.3 節の「\[First Boot Console\] の実行」](#)を参照して、Clearswift SECURE ICAP Gateway のインストールを完了します。

3.2 ISO イメージからのインストール

1. ISO イメージが格納されているメディアをドライブに挿入し、サーバーの電源を入れます。

[Welcome to Clearswift EmailWeb Solutions] 起動画面が表示されます。起動デバイスが見つからない場合は、BIOSでシステムの起動シーケンスを調整する必要があります。



2. 矢印キーまたはキーボードのショートカットを使用して、メニューから **[Install Secure ICAP Gateway]** を選択します。**Enter** キーを押して、インストールを選択します。
インストールプロセスが開始され、自動的に実行されます。



インストール後のスクリプトなど、インストールプロセス全体を完了するために 10～15 分かかります。パッケージのインストールが完了したら、インストールプロセスでは 5 分ほど "Running post-installation scripts" のメッセージが表示されます。このメッセージが画面に表示されている間は、インストールプロセスがバックグラウンドで実行されているため、プロセスを中断しないようにしてください。インストールプロセスが完了すると、システムは自動的に再起動されます。*Welcome to Clearswift Web Solutions* と表示された起動画面が再び表示され、60 秒のタイムアウト後に **Boot from local drive** が自動的に実行されます。

(missing or bad snippet)

設定を適用してから、Clearswift SECURE ICAP Gateway を使えるようになるまで 5 ～ 10 分ほどかかります。Gateway のインターフェースにアクセスできる場合、オンラインヘルプの「[最初の手順](#)」を参照してください。



再起動後に Clearswift インストール メディアがイジェクトされたら、Clearswift インストール ウィザードを設定する前に DVD を再度挿入する必要があります。このウィザードでは、Gateway のセットアップを完了するためにインストールメディアにアクセスする必要があります。

Clearswift SECURE ICAP Gateway インストール ウィザードの使用に関する注記



ウィザードで表示されたネットワーク設定には、Red Hat Enterprise Linux を設定したときに作成した設定が反映されます。これらの設定は読み取り専用で表示されます。



ウィザードの設定は、インストールの直後、追加のネットワーク アダプターを設定する前に行うことをお勧めします。ただし、インストールウィザードの設定前にマシンの再起動が必要な場合は、再起動後にファイアウォールを無効にしてください。ファイアウォールを無効にするには、`service iptables stop` コマンドを実行します。ウィザードを完了すると、ファイアウォールは自動的に再起動されます。

Clearswift Gateway バージョン 3 とバージョン 4 のピアリング

Clearswift Gateway バージョン v4 にてセキュリティーを強化したことにより、ピアリングのために TLS v1.0 プロトコルはサポートされません。TLS v1.2 のみサポートしています。



たとえば、PMM または Web Gateway Reporter を使用している Gateway バージョン 3 を Gateway バージョン 4 とピアする場合、4.7.0 Gateway にて **TLS v1.0** を再度有効化し、Gateway バージョン 4 およびバージョン 3 の暗号化(サイファー)を更新する必要があります。

4.7.0 Gateway のインストール後に、[*Clearswift Installation Wizard*] を使用して Gateway の設定が完了してから、この手順を適用してください。

3.3.1 Gateway リリース 4.7.0 上で TLS v1.0 のを再有効化し暗号化(サイファー)をアップデートする方法:

1. 次のファイルから **sslEnabledProtocols** 属性を検索します:

```
/opt/tomcat/conf/  
server-bind.xml  
server-bind2.xml
```

2. TLSv1.2 から TLSv1、TLSv1.2 に各プロトコルの値を変更します。

server-bind2.xml 中に2つのインスタンスがあります。

3. 同じファイル内の **ciphers** 属性を検索します:

```
/opt/tomcat/conf/  
server-bind.xml  
server-bind2.xml
```

4. 各ファイルのカンマ分割されたリストの最後に TLS_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA を追加します。

server-bind2.xml 中に2つのインスタンスがあります。

5. 次のコマンドを使用して、UI を再起動します。

```
cs-servicecontrol restart tomcat
```

3.3.2 Gateway バージョン 3 のピアのキーストアの更新方法

証明書の生成方法とTomcat が使用するための KeySore への配置方法:

1. コマンドラインで root の権限を使用します。
2. `cd /opt/msw/data/`
3. `mv keystore keystore.orig`
4. `keytool -genkey -alias tomcat -keyalg RSA -sigalg SHA1withRSA -keystore keystore -storepass changeit --dn "CN=Clearswift,OU=Clearswift,O=Clearswift,L=Reading,S=Berkshire,C=Uk" -validity 3650`



利用者自身の詳細によって証明書属性(CN、OU、Oなど) を更新します。

このコマンドを入力した後、システムがTomcatのためのキーパスワードの入力を求めます。キーストアのパスワードと同じ場合は、RETURNを押します。

5. `uiservicecontrol restart tomcat`

3.4 Clearswift オンライン リポジトリへのアクセスの有効化または無効化

Clearswift First Boot Console で、オンライン Clearswift リポジトリまたは(オフライン) ローカルメディアから適用する更新を選択しました。

Clearswift オンラインリポジトリは、通常、インストール後にデフォルトで無効になっています。つまり、ローカルメディアからアップデートを取得しなければなりません。ただし、インターネットにアクセスできない場合は、**[Online Mode]** を選択して、Clearswift オンラインリポジトリから更新情報を受け取ることができます。

必要に応じて、後でオンラインリポジトリのソースを変更することができます。

[Configure System] > [View and Apply Software Updates] > [Enable/Disable use of Online Repositories] の順にクリックします。

オフラインリポジトリからオンラインリポジトリに切り替えると、通常、公開から24時間以内に Red Hat セキュリティ修正プログラムにアクセスできます。ほとんどのオフラインインストールでは、これを推奨しています。ただし、今後の Clearswift 製品のアップグレードにオンラインリポジトリも使用する予定がある場合にのみ、これを行う必要があります。



オンラインからオフラインへの切り替えはサポートされておらず、将来的に更新の問題につながる可能性があります。

システムが最新の状態であることを確認するには、**Server Console** を使用してシステムまたは製品のアップグレードを適用する必要があります。コマンドラインを使ってアップグレードした場合、'no updates available' と表示されます。

4. Clearswift SECURE ICAP Gateway バージョン 3.2 からのアップグレード



Clearswift SECURE ICAP Gateway を初めてインストールする場合は、このセクションを省略してください。

Clearswift SECURE ICAP Gateway バージョン 3 からバージョン 4.7.0 にインストールする場合には、まず Gateway バージョン 3 の最新バージョンであるバージョン 3.2 に完全にアップグレードしてから、次の指示に従ってください。

このセクションでは、ポリシー設定とシステム設定を、Clearswift SECURE ICAP Gateway バージョン 3.2 から 4.7.0 にインポートする方法を説明します。Clearswift SECURE ICAP Gateway 4.7.0 をインストールする前に、既存のバージョンでバックアップを実行してください。



Gateway バージョン 3 からの移行は、static hosts、static route、および DNS のなどのネットワーク設定は保存されません。Gateway のアップグレード時に、Server Console を使用してネットワーク設定を再設定してください。

4.1 オリジナル システムのバックアップ



FTP サーバーのシステム バックアップは、最新の適用された設定のみ対象となります。それよりも前のポリシー設定、および、監査とトラッキング データ、ログが必要な場合には、まずシステム バックアップからの復元を行い、次に新しい Gateway のインストール後に .bk ファイルを復元する必要があります。

1. 設定を適用します。これにより、最新バージョンに移行します。
2. 既存の Gateway システムを使用して、**【システム センター】** > **【バックアップとリストア】** ページに移動します。
3. タスク パネルの **【今すぐシステムをバックアップ】** オプションを使用して、システム バックアップを実行します。



使用可能なシステム領域をすべてバックアップすることをお勧めします。



システム バックアップは、障害復旧の手段として、またシステム アップグレード計画の際に使用することをお勧めします。他の目的で(たとえば、ピアグループを作成するときのGateway のクローンを作成する手段として) 使用しないでください。障害復旧およびシステム アップグレード以外の目的がある場合は、設定のバックアップとリストアを使用してください。

4.2 Gateway のインストール 4.7.0

このインストール ガイドの手順に従って Clearswift SECURE ICAP Gateway をインストールします。

Clearswift SECURE ICAP Gateway をインストールしたら、ソフトウェアの最新の更新ファイルがある Clearswift のオンライン リポジトリへのアクセスを有効化する必要があります。一へのアクセスを設定する必要があります。詳細については、「[Clearswift オンラインリポジトリへのアクセスの有効化](#)」を参照してください。

4.3 システム バックアップの復元

1. 新規のインストール済みGatewayを使用して、**【システム センター】** > **【バックアップとリストア】** ページに移動します。
2. タスク パネルのオプションを使用して、**【システムの復元】** を選択します。FTP 設定を入力し、**【接続】** をクリックします。



システムの復元には、バックアップの作成時に設定したすべての領域が含まれます。また、設定 および監査ログが含まれる場合もあります。システムの復元が完了すると、Gateway は再起動します。

5. リリース 4.x からリリース 4.7.0 へのアップグレード



Clearswift SECURE ICAP Gateway を初めてインストールする場合は、このセクションを省略してください。

Clearswift SECURE ICAP Gateway 4.7.0 へのアップグレード時には、以下の手順に従いソフトウェア更新をダウンロードして適用してください。

SSH セッションを開き、Clearswift Server Console にアクセスします。cs-admin アクセス資格情報を使用してログインします。

オンラインモードとオフラインモード

オフラインモードは、インストールがインターネットから切断された閉じた環境で動作するように設計されています。特殊なシステムの要件がある場合を除き、オンラインモードで Clearswift SECURE ICAP Gateway をインストールしてください。



オフラインアップグレードを実行するには、適切なメディア (DVD/USB) にマウントされた最新リリースの ISO コピーが必要です。この手順を完了するために、さらにガイダンスが必要な場合には、Clearswift テクニカル サポートにお問い合わせください。

オンラインリポジトリが有効になっている場合、更新は夜間に(自動的に)ダウンロードされます。すぐに適用することができます。最新のセキュリティ修正が発行されたと思われる場合は、**[Check for New Updates]** ボタンを使用することもできます。

ソフトウェア更新プログラムを適用するには:

1. Clearswift Server Console のメインメニューで **[Configure System] > [View and Apply Software Updates] > [Apply Updates] > [OK]** の順に選択します。
2. **[Yes]** をクリックして、更新ファイルの適用を確認します。
ダウンロードされたすべての更新がインストールされます。この処理には数分かかることがあります。進行状況ログが表示されます。
3. 操作完了のメッセージが表示されたら、**[Done]** をクリックしてインストール処理を完了します。

アップグレードのプロセスの最後に、システムを再起動するか、ログアウトするように求めるメッセージが表示されます。画面の指示に従ってください。

どちらの場合も、Gateway サービスは自動的に再起動します。

付録: ソフトウェアインストールプロセス(ディスクから)

ISO イメージを使用して既存の Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.9 サーバー (適切に設定された AWS または Azure のインスタンスを含む) 上に、Clearswift SECURE ICAP Gateway をインストールする手順は次の通りです。



RHEL 6.9 を最小限のサーバーとしてインストールし、/(root) パーティションと /var パーティションを個別に作成する必要があります。ルートパーティションに、最小限 20 GB、テスト環境のために /var は最小限 60GB と本番環境のために 200GB が必要です。

Clearswift SECURE ICAP Gateway をインストールするには:

1. コマンドラインで root の権限を使用します。
2. ISO イメージが格納されているメディアを挿入し、/media/os にマウントします。

```
mkdir -p /media/os
```

```
mount /dev/cdrom /media/os
```

3. cs-emailweb-repo-confweb-repo-conf パッケージを手動でインストールします。cs-emailweb-repo-confweb-repo-conf パッケージは、Clearswift SECURE ICAP Gateway をインストールするための準備をシステムに設定します。

```
rpm -ivh /media/os/cs-repo/Packages/cs-web-repo-conf-3.4.1-2526.x86_64.rpm
```

4. postfix、rsyslog、samba V3 を強制的に削除します。

```
yum -y remove postfix rsyslog samba-common
```

5. 次のコマンドを使用して、必要な製品をインストールします。

```
yum install -y cs-sig --enablerepo=cs-*
```

このコマンドは、外部リポジトリへのアクセスを可能にし、その後 Clearswift リポジトリのみが Gateway のインストールに使用されることを保証します。



新たな不一致事項のために手順 5 が失敗する場合は、手順 4 の間に別のパッケージの削除が必要な場合があります。

6. 完全にログアウトし、cs-admin として再度 ログインします。「[First Boot Console の実行](#)」を参照して作業を続行します。

インストール後の注意事項

ソフトウェアのインストールプロセス完了後には、インストールプロセスにより、次のシステムの一部が変更されている場合があります。

1. ファイアウォールの設定は、Gateway の制御下になりました。SSH アクセスが必要な場合には、Clearswift SECURE ICAP Gateway ユーザー インターフェースから再度有効化する必要があります。詳細については、オンラインヘルプからClearswift SECURE ICAP Gateway の「[SSH アクセスの設定](#)」を参照してください。
2. すべてのネットワーク構成は Server Console の制御下となりました。コマンドラインでネットワーク構成を変更すると、Gateway にネットワーク構成の変更が通知されないため、避けなくてはなりません。コマンドラインからネットワーク構成を変更する必要がある場合には、Clearswift サポートにお問い合わせください。
3. crontab の構成が変更されます。既存の root の cronjobs が失われる可能性があります。ですが、それらを再度追加することができます。

ソフトウェアのインストールプロセスが完了したら...

ソフトウェアのインストールプロセスでは、既存のリポジトリ構成は自動的に無効になりません。コマンドラインから追加のサードパーティ製ソフトウェアを通常の方法でインストールすることができます。これには追加の RedHat ソフトウェアが含まれます。



4.6 以降のバージョンでは、Clearswift Server Consoleを使用して Clearswift が提供するアップグレードのみを適用することができます。Server Console では、アップグレードプロセス中に信頼できる Clearswift リポジトリのみが使用され、プロセス中にサードパーティのリポジトリからの意図しない更新が明示的にブロックされます。

付録: ソフトウェアのインストールプロセス(Clearswift オンラインリポジトリから)

次の手順では、Clearswift がオンラインでホストしているリポジトリを使用して、既存の Red Hat Enterprise Linux(RHEL) 6.9 サーバー(適切に構成された AWS または Azureのインスタンスを含む) に Clearswift SECURE ICAP Gateway をインストールする

方法を説明します。このインストールを完了するには、インターネットにアクセスする必要があります。



RHEL 6.9 を**最小限**のサーバーとしてインストールし、/(root) パーティションと /var パーティションを個別に作成する必要があります。ルートパーティションに、最小限 20 GB、テスト環境のために /var は最小限 60GB と本番環境のために 200GB が必要です。

Clearswift SECURE ICAP Gateway をインストールするには:

1. コマンドラインで root の権限を使用します。
2. cs-emailweb-repo-confweb-repo-conf パッケージを手動でインストールします。cs-emailweb-repo-confweb-repo-conf パッケージは、Clearswift SECURE ICAP Gateway をインストールするための準備をシステムに設定します。

```
rpm -ivh http://repo.clearswift.net/rhel6/gw-web/os/x86_64/Packages/cs-web-repo-conf-3.4.1-2526.x86_64.rpm
```

3. postfix、rsyslog、samba V3 を強制的に削除します。

```
yum -y remove postfix rsyslog samba-common
```

4. 次のコマンドを使用して、必要な製品をインストールします。

```
yum install -y cs-sig --enablerepo=cs-*
```

このコマンドは、外部リポジトリへのアクセスを可能にし、その後 Clearswift リポジトリのみが Gateway のインストールに使用されることを保証します。



新たな不一致事項のために手順 5 が失敗する場合は、手順 4 の間に別のパッケージの削除が必要な場合があります。

5. 完全にログアウトし、cs-admin として再度ログインします。「[First Boot Console の実行](#)」を参照してください。

インストール後の注意事項

ソフトウェアのインストールプロセス完了後には、インストールプロセスにより、次のシステムの一部が変更されている場合があります。

1. ファイアウォールの設定は、Gateway の制御下になりました。SSH アクセスが必要な場合には、Clearswift SECURE ICAP Gateway ユーザー インターフェースから再度有効化する必要があります。詳細については、オンラインヘルプからClearswift SECURE ICAP Gateway の[「SSH アクセスの設定」](#)を参照してください。
2. すべてのネットワーク構成は Server Console の制御下となりました。コマンドラインでネットワーク構成を変更すると、Gateway にネットワーク構成の変更が通知されないため、避けなくてはなりません。コマンドラインからネットワーク構成を変更する必要がある場合には、Clearswift サポートにお問い合わせください。
3. crontab の構成が変更されます。既存の root の cronjobs が失われる可能性があります。ですが、それらを再度追加することができます。

ソフトウェアのインストールプロセスが完了したら...

ソフトウェアのインストールプロセスでは、既存のリポジトリ構成は自動的に無効になりません。コマンドラインから追加のサードパーティ製ソフトウェアを通常の方法でインストールすることができます。これには追加の RedHat ソフトウェアが含まれます。



4.6 以降のバージョンでは、Clearswift Server Consoleを使用して Clearswift が提供するアップグレードのみを適用することができます。Server Console では、アップグレードプロセス中に信頼できる Clearswift リポジトリのみが使用され、プロセス中にサードパーティのリポジトリからの意図しない更新が明示的にブロックされます。

付録: USB インストール メディアの準備

次の手順では、Clearswift SECURE ICAP Gateway ソフトウェアの ISO イメージを USB メディアにコピーする方法を説明します。

1. Clearswift SECURE ICAP Gateway ソフトウェアの ISO イメージを、[オンライン Clearswift リポジトリ](#)からダウンロードします。



必ず正しいバージョンの ISO イメージを使用してください。WEB_470.iso

2. ドライブのボリューム名を保持する USB ツールをダウンロードします。[Rufus Portable](#) の使用をお勧めします。



このプロセスにRufusの標準バージョンを使用しないでください。ポータブル版であることを確認してください。

Rufusの代わりにUSBツールを使う場合、以下のUSBツールはClearswift SECURE ICAP GatewayのソフトウェアISOイメージでは使用できません:



- YUMI
- Universal USB Installer
- Fedora liveusb-creator

次の手順では Rufus 2.11 Portable の使用を想定しています。

3. **rufus-2.11p.exe**を実行します。
4. USB メディアを挿入し、それを**[デバイス]** ドロップダウン メニューから選択します。
5. **[フォーマット オプション]** から**[ブート可能なディスクの作成]** を選択し、ディスクアイコン  を選択して、書き込みを行うClearswift SECURE ICAP Gateway ISO を選択します。Rufus は ISO をスキャンし、他のオプションは自動的に記入されます。
6. **[Start]** をクリックします。**[ISOHybrid image detected]** のダイアログ ボックスが表示されます。**[Write in ISO Image mode (Recommended)]** を選択し、**[OK]** をクリックします。ドライブの既存のすべてのデータが削除されることを警告するダイアログボックスが表示されます。続行する場合は **[OK]** をクリックします。
7. インストールが完了したら、「[Clearswift SECURE ICAP Gatewayのインストール手順](#)」に戻ります。